

第11回埼玉緩和薬物療法研修会参加者アンケート集計結果

開催日時：2016年7月2日(土) 14:00～17:00

開催場所：埼玉医科大学かわごえクリニック講堂

講 演1：「メサドン塩酸塩錠の特徴と使用上の留意点」
テルモ株式会社 保科 靖彦 先生

講 演2：「メサドンを在宅で使用する際の問題点と対策」
山梨大学医学部附属病院医療チームセンター長
麻酔科学講座講師 飯嶋 哲也 先生

講 演3：「在宅医療に携わる薬剤師の役割」
埼玉県薬剤師会常任理事・ふれあい薬局 池田 里江子 先生

講 演4：「1%の科学と、99%の思いやり～寄り添い、ささえる心～」
埼玉医科大学国際医療センター総合診療・地域医療科 准教授
丸木記念福祉メディカルセンター院長補佐 在宅医療室 齋木 実 先生

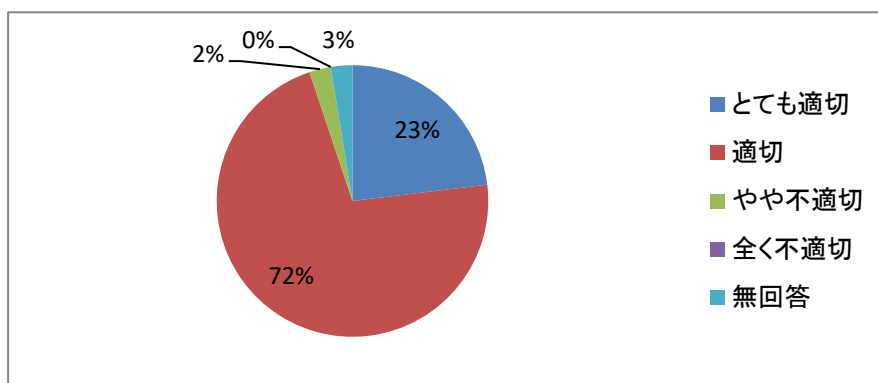
総合評点
3.5 (4件尺度)

研修者数	アンケート提出数	アンケート回収率	アンケート意見あり(枚)
43	39	91%	15

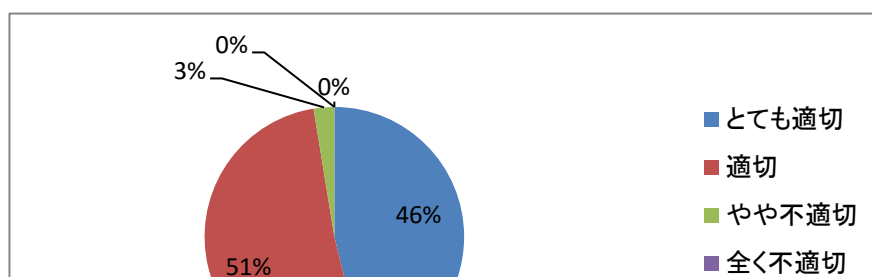
評価記入---4. とても適切 3. 適切 2. やや不適切 1. 全く不適切

1. 講演テーマについて

1-①	とても適切	適切	やや不適切	全く不適切	無回答	平均
	9	28	1	0	1	3.2

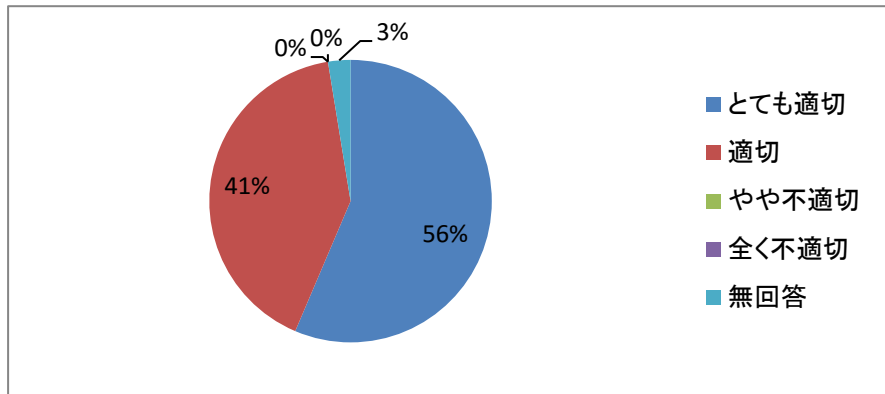


1-②	とても適切	適切	やや不適切	全く不適切	無回答	平均
	18	20	1	0	0	3.4

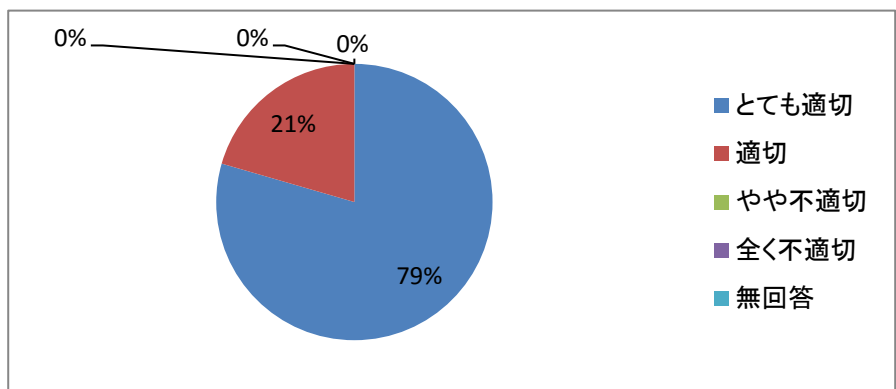




1-③	とても適切	適切	やや不適切	全く不適切	無回答	平均
	22	16	0	0	1	3.6

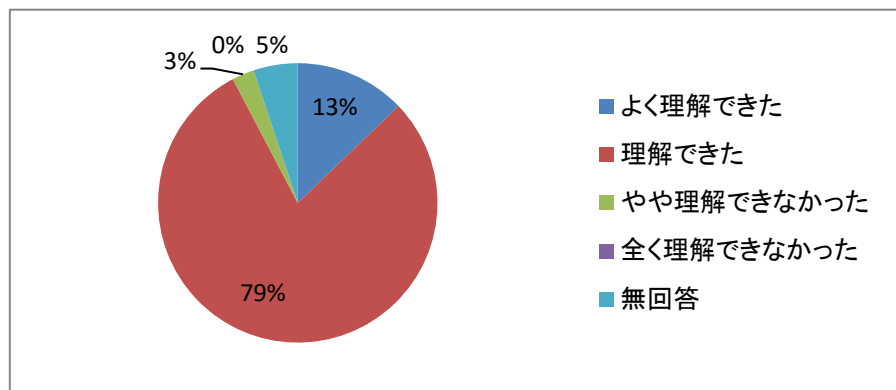


1-④	とても適切	適切	やや不適切	全く不適切	無回答	平均
	31	8	0	0	0	3.8



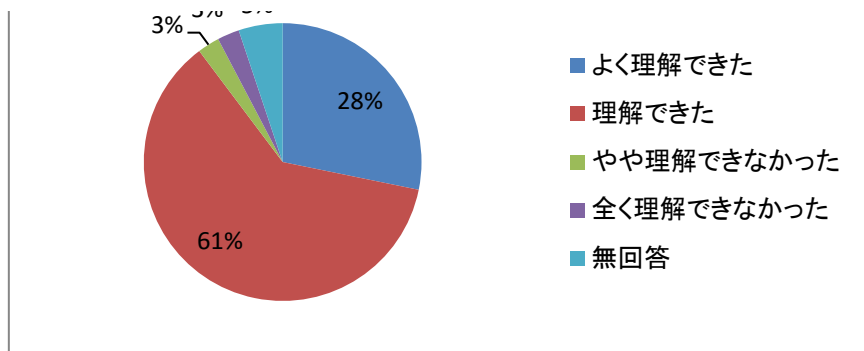
2. 講演内容について

2-①	よく理解できた	理解できた	やや理解できなかった	全く理解できなかった	無回答	平均
	5	31	1	0	2	3.1

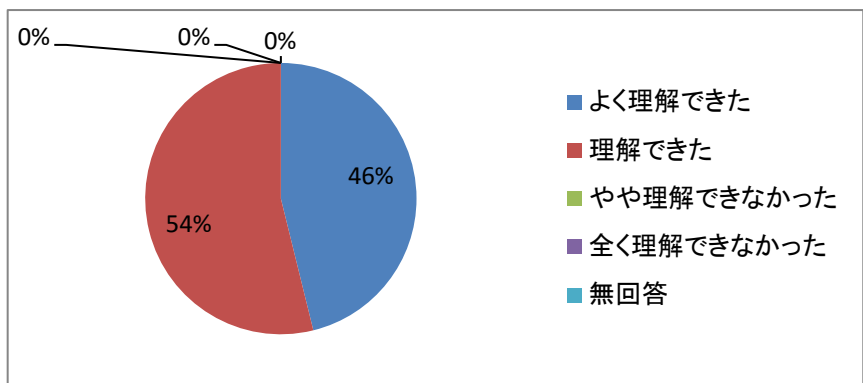


2-②	よく理解できた	理解できた	やや理解できなかった	全く理解できなかった	無回答	平均
	11	24	1	1	2	3.2

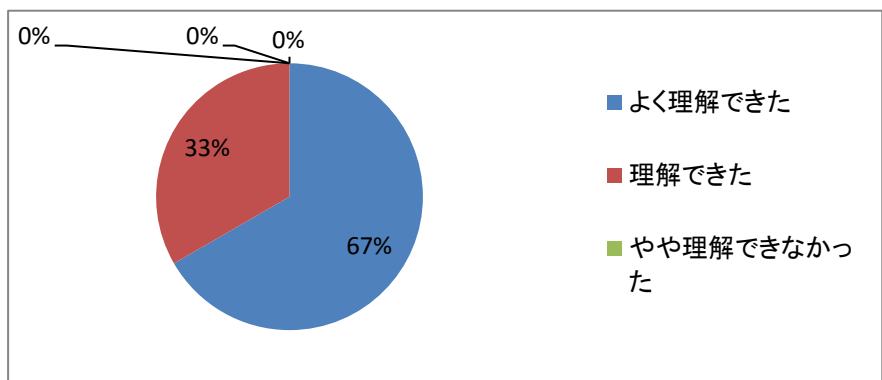




2-③	よく理解できた	理解できた	やや理解できなかった	全く理解できなかった	無回答	平均
	18	21	0	0	0	3.5

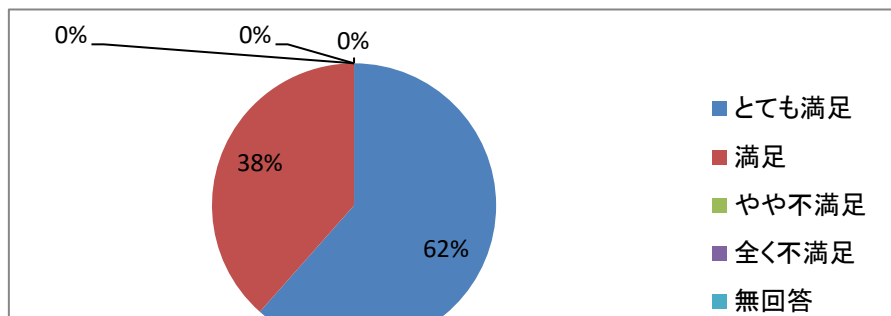


2-④	よく理解できた	理解できた	やや理解できなかった	全く理解できなかった	無回答	平均
	26	13	0	0	0	3.7



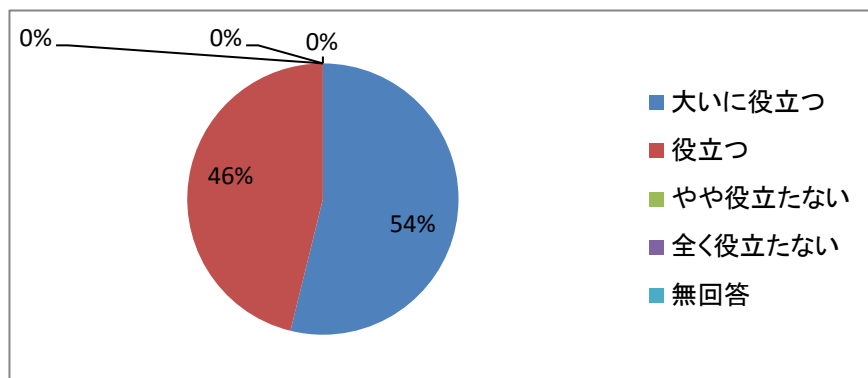
3. 本研修会の印象について

3	とても満足	満足	やや不満足	全く不満足	無回答	平均
	24	15	0	0	0	3.6



4. 本研修会で学び今後の業務に役立つか

4	大いに役立つ	役立つ	やや役立たない	全く役立たない	無回答	平均
	21	18	0	0	0	3.5



アンケート意見（15枚）

1. 講演テーマについて

1-①	メサドンの使用経験がないため、注意事項などが分かった	1
1-②	メサドンの特徴やチーム医療の大切さを知ることができた	1
1-④	「帰りたい時が帰る時」という言葉が印象的だった	1

2. 講演内容について

2-①	使用上の留意点はよく理解できた	1
	メサドンの立ち位置についての話をもう少し聞きたかった	1
2-②	PCAについて知ることができた	1
	多職種との連携が大切だと分かった	1
2-③	病院薬剤師として在宅への関わり方を考えさせられた	1
2-④	笑顔で最期を迎えられることの大切さを実感した	1
	在宅での薬剤師の仕事内容が分かった	1
	今まで勉強してきた科学が1%に近づける努力として、その99倍の思いやりを持てるように努めていきたいと思えた	1

3. 本研修会の印象について

	薬の内容から在宅薬剤師、緩和医師の話まで多岐にわたる内容だった	1
--	---------------------------------	---

5. 今後取り上げてほしいテーマについて

	疼痛緩和困難な事例について	1
	病棟のない病院での疼痛コントロール	1
	鎮痛補助薬の使用方法について	1
	独居老人の在宅について	1
	在宅医療と感染、栄養	1
	緩和医療と感染、栄養	1
	倦怠感	1
	薬薬連携の具体例など	1
	薬薬連携の実際	1
	病院薬剤師と保険薬剤師の連携	1
	薬剤師の関わり	1
	緩和ケアチーム	1
	論文の評価、書き方	1

6. 本研修会で気づいたこと・質問・希望

	心に残る講演だった	1
	在宅医療の現状を知ることができた	1
	病院薬剤師として緩和ケアチーム、訪問看護ステーションとの関わりの中で何ができるのか考えていきたいと思う	1
	病院薬剤師が、今後在宅にどれだけ関わられるか考えていきたいと感じた	1
	患者さんにとって一番何がいいのかを考え、接することが大切だと感じた	1

調剤薬局との連携方法や調剤薬局が求めている内容について知ることができた	1
病院薬剤師は在宅への関わりがないということに気づかされた。講演会や実際の話を聴いても、薬剤師以外の関わりで成立してしまっている印象がある。在宅以外の場面でも踏み込んでいく一歩が大切だが、どうしていけばよいのかが難しい	1
現在、急性期の病院に勤めているが、今後は在宅薬剤師として仕事をしていきたいと思い参加した。抗がん剤には全く関わっていないので抗がん剤の勉強や麻薬の使い方、バイタルなどいろいろと勉強しなくてはならないことも分かった。	1
当薬局は無菌調剤室があるが、医療センター等から在宅への要望があれば受け入れたいと思っている。どのように連携をとっていけばよいのか分からない	1